

令和7年度西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会
園小接続報告書

内容

今回の訪問を通して、園の先生方が日々の保育を大切に積み重ね、子どもたちの成長を丁寧に支えておられることを強く感じた。各園の取組として、手作り玩具や自然物を取り入れた遊び、家庭から持参した絵本を劇遊びに生かす活動など、子どもの興味や発想を尊重した実践が、豊かに展開されていた。また、振り返りや発表の場を設け、表現力を育む取組も印象的である。

環境構成の面では、安全性に十分配慮しつつ、季節を感じ取れる素材や、主体的な活動を促す玩具・教材が効果的に配置されていた。特に5歳児のダイナミックな壁面制作や、子どもたち自身で整える環境づくりは、小学校の学びへつながる主体的な姿を育てていた。

保育者の関りについては、穏やかで肯定的な声かけが一貫しており「楽器さん喜んでいるね」など、心を動かす言葉を用いた関わりが子どもの意欲につながっていた。先生的一声で子どもがすっと動ける統率力も見事であり、細やかな観察に基づく配慮が行われているため、“気になる子”も集団の中で自然に成長している姿が見られた。

園小接続については、図工や生活科の学びを意識した活動や、「言葉見付け」による語彙の育ちなど、就学後を見据えた働きかけがすでに多く実践されていた。また、LDXの公開授業への参加など、教職員同士の交流を通して互いの教育内容を理解し合う機会が深まったことは大きな成果である。市内小学校との交流の在り方に差が見られるため、4月当初から計画的に交流を進め、一定の共通理解をもつ仕組みづくりを行っていくことが今後の課題である。